

# 中学地理プリント (過去問類似)

## 日本の資源と産業

名前

得点

/8

**問1** ロシアの広範囲に産地が分布しており、日本の輸入量全体に占めるロシアの割合が6割を超えているエネルギー資源について、その輸入動向を説明したものととして適切なものはどれですか。 (2026年 山形公立入試 類似)

1. 日本はこの資源の約65パーセントをロシアから輸入しており、インドネシアやアメリカも主要な輸入先となっている。
2. この資源は西アジアからの輸入が中心であり、ロシアからの輸入割合は1割に満たない。
3. この資源は主にオーストラリアから輸入されており、ロシアは第3位の輸入先である。
4. 日本はかつて国内で盛んにこの資源を産出していたが、現在は輸入のすべてをアメリカに依存している。

**問2** 1969年時点では農地が広がっていた地域が、2005年には住宅地や公共施設へと土地利用が変化した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 大阪公立入試 類似)

1. 都市部への人口集中に伴い、住居を確保するための宅地需要が高まったため
2. 食料自給率を向上させるために、大規模な区画整理と農地の集約が行われたため
3. 過疎化の影響により、管理できなくなった田や山林が放置されたため
4. 工業の衰退によって工場跡地がすべて更地になり、自然環境が回復したため

**問3** 1960年から2010年代後半にかけての日本の貿易額と品目別割合の変化を記した資料において、輸出総額が飛躍的に増加する中で、輸出の中心が繊維製品などの軽工業製品から移り変わった、現在最も大きな割合を占める品目の分類として適切なものを選びなさい。 (2022年 鳥取公立入試 類似)

1. 機械類
2. 食料品
3. 原料品
4. 繊維製品

**問4** 日本国内において、米粉用米の需要量や作付面積が増加傾向にある状況を踏まえ、国がその栽培を推奨している主な目的として最も適切なものはどれですか。 (2021年 長野県公立入試 類似)

1. 水田を有効活用することで、国内の食料自給率を向上させるため
2. 主食用米の生産を大幅に増やし、海外への輸出を最優先するため
3. 海外からの安い小麦の輸入量をさらに拡大し、国内生産を縮小するため
4. すべての水田を畑地に転換し、米作りそのものを段階的に終了させるため

**問5** 千葉県のような大都市に隣接する地域では、農業産出額のうち野菜が約37%、畜産が約29%を占め、米の割合を大きく上回っています。このような生産傾向が見られる理由として適切なものはどれですか。 (2024年 石川公立入試 類似)

1. 都市部への輸送距離の短さを活かし、鮮度が求められる作物や需要の多い畜産物の生産に力を入れているため。
2. 政府の政策により、大都市の周辺地域では米の生産が法律で厳しく制限されているため。
3. 大都市周辺は一年中気温が高く、米を作るよりも野菜を育てる方が土壌の性質に適しているため。
4. 広大な平野部が少なく、大規模な機械を導入した米作りが物理的に不可能であるため。

**問6** 茨城県は米の収穫量で全国上位に位置しながら、農業産出額に占める米の割合が約23.5%と、秋田県(約64.1%)などに比べて低くなっています。このように、収穫量が多いにもかかわらず、全体における米の割合が相対的に低くなる理由として、茨城県の農業におけるどのような特徴が挙げられますか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

1. 大消費地に近い立地を活かし、野菜や畜産など米以外の生産も盛んな近郊農業が行われているため
2. 冷害の影響を避けるために、米から果樹栽培や工芸作物への転換が急速に進んだため
3. 大規模な平野が少なく、10アールあたりの収量が東北地方の各県に比べて著しく低いいため
4. 農地の大部分が工業団地や住宅地に転用され、農業経営の規模が縮小しているため

**問7** 日本の重化学工業において、製鉄所や石油化学コンビナートが海岸沿いに集中して建設される主な理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2020年 京都公立入試 類似)

1. 海外から輸入する鉄鉱石や原油などの重い原料を、大型船で直接運び込む大量輸送に便利であるため
2. 最新の情報を迅速に収集し、流行に合わせた製品を生産するための情報通信網が発達しているため
3. 印刷業やパン工業のように、消費者が多い都市部へ鮮度を保ったまま製品を出荷することを重視するため
4. 広大な森林資源を背景に、原材料となる木材を内陸から河川を利用して容易に運び出すことができるため

**問8** ある地形図において、高速道路のインターチェンジ付近に、歯車の記号で示される施設が多く集まっている様子が確認できた。このように内陸部の高速道路沿いにこれらの施設が立地する主な利点として、最も適切なものはどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)

1. 大型トラックを利用した製品や部品の輸送がしやすい。
2. 海外から原料を輸入するための大型船が接岸しやすい。
3. 生産に必要な大量の工業用水を河川から取り入れやすい。
4. 地価が高く、従業員のための住宅地を確保しやすい。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 日本はこの資源の約65パーセントをロシアから輸入しており、インドネシアやアメリカも主要な輸入先となっている。	ロシアは世界有数の資源大国であり、石炭の産地が国内に広く分布しています。2024年の日本の統計では、この資源の輸入先としてロシアが65.3パーセントと圧倒的なシェアを占めており、次いでインドネシアやアメリカからの輸入が多くなっています。原油などの他資源と比較して、ロシアへの依存度が非常に高いことが特徴です。
問2	<b>答え 1</b> 都市部への人口集中に伴い、住居を確保するための宅地需要が高まったため	日本の都市郊外では、高度経済成長からバブル経済期にかけて都市へ流入する人々を受け入れるための「ベッドタウン」の整備が進みました。これにより、それまで多くの面積を占めていた「田」などの農地が、計画的な宅地開発によって住宅地や学校、公園といった公共施設に転用されたという背景があります。
問3	<b>答え 1</b> 機械類	高度経済成長期を経て、日本の産業構造は軽工業から重化学工業へと転換しました。これに伴い、貿易品目も繊維製品中心から、自動車や半導体、精密機械などの高度な技術を要する「機械類」へと移行しました。このように輸出の中心がより付加価値の高い工業製品へ移ることを「貿易品目の高度化」と呼びます。
問4	<b>答え 1</b> 水田を有効活用することで、国内の食料自給率を向上させるため	日本では食生活の変化により主食用米の消費が減少していますが、小麦の代用となる米粉の需要は高まっています。国は、主食用米の作付制限などで生じる余剰水田を「米粉用米」の栽培に充てることで、水田という生産基盤を維持しつつ、低迷する食料自給率の引き上げを図る方針をとっています。
問5	<b>答え 1</b> 都市部への輸送距離の短さを活かし、鮮度が求められる作物や需要の多い畜産物の生産に力を入れているため。	大都市周辺の農業では、土地の価格が高いため、付加価値の高い農業が求められます。統計において野菜や畜産の産出額が高いのは、輸送コストが抑えられる利点と、新鮮な野菜を求める都市住民のニーズに応える生産体制が整っているからです。これに対し、広い土地を必要とする米作りよりも、集約的に生産できる野菜や畜産が優先される傾向にあります。
問6	<b>答え 1</b> 大消費地に近い立地を活かし、野菜や畜産など米以外の生産も盛んな近郊農業が行われているため	茨城県は関東平野の平坦で広大な農地を有しており、米の生産も盛んですが、同時に日本最大級の消費地である東京圏に隣接しています。この立地条件を活かして、鮮度が重視される野菜（ピーマン、ハクサイ、レタスなど）や、付加価値の高い畜産物などを組み合わせた経営が行われています。その結果、農業産出額の総額が大きくなると同時に、米以外の品目の占める割合が高まるため、米の産出額割合は相対的に低くなります。これに対し、秋田県などは冬の積雪の影響もあり、歴史的に米を中心とした生産構造が維持されてきたため、割合が高くなる傾向にあります。
問7	<b>答え 1</b> 海外から輸入する鉄鉱石や原油などの重い原料を、大型船で直接運び込む大量輸送に便利であるため	日本は工業生産に必要な原料の多くを海外に依存しています。特に鉄鋼業や石油化学工業では、重量のある鉄鉱石や原油を大量に扱うため、内陸部への陸上輸送コストを削減する必要があります。そのため、大型タンカーや貨物船が直接接岸できる臨海部に工場を構えることで、輸入から生産、製品の輸出までを効率的に行う仕組みが整えられました。
問8	<b>答え 1</b> 大型トラックを利用した製品や部品の輸送がしやすい。	歯車の記号は工場を表す。近年、工場や工業団地は、広大な土地が得やすく地価が比較的安い内陸部の高速道路インターチェンジ付近に建設される傾向がある。最大の理由は、高速道路網を利用することで、トラックによる製品や部品の輸送時間を短縮し、全国各地へ効率的に運ぶことができるためである。船での輸入に有利なのは臨海部であり、工業用水の確保を主目的とする場合は大きな河川の近くなどが選ばれる。